

取組名称	2歳から4000日以上琵琶湖に通い続ける高校生の、琵琶湖を守る仲間作り！			団体設立後の経過年数	
応募取組主体名称	黒川 琉伊	活動地域	滋賀県大津市	応募取組の活動年数	14年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動の平衡賞				



取組の要旨

琵琶湖の生き物が好きすぎて小学5年の時、琵琶湖まで走って30秒の大津市北部へ引っ越してきた。四季を感じられる自然豊かな環境に感動したのもつかの間、リゾートのゴミ問題、レジャーに来る人々の自然への配慮の逸脱を目の当たりにした。さらに放置された釣り糸に絡まって死んだカイツブリの死体をみて怒りでどうにかなりそうだった。そんな時ふと、生き物や自然が好きな人口が増えれば、琵琶湖にゴミを捨てる人は減るのではないかと考えた。

実績の要旨

2022年「はじめてのびわこの魚」を出版。琵琶湖の淡水魚は一見地味で、出版されている図鑑なども専門書が多く、子どもたちが好きになるきっかけになりうる本が少なかったことから、絵本コーナーに置いてもらえる、はじめての第一歩になる図鑑のような絵本を制作した。琵琶湖博物館名誉館長先生推薦。
3か月で3000冊初版が完売し、重版となった。絵本をきっかけに活動を知った世界的建築家の安藤忠雄氏が、この子に何か賞をあげたい！と第一回安藤忠雄財団環境賞を受賞。

取組評価の要旨	環境への貢献	嫌われがちなゴミ拾いも、生き物観察会とセットで行うことで、楽しいと毎回参加してくれるご家族が増えた。
	社会・経済への貢献	近鉄あべのハルカス、ビバシティ彦根等、生き物トークショーやライブペイントなど多くの来場者があった。
	地域資源の活用	近江舞子沼（内湖）のヨシ刈りボランティアさんと連携し一緒にゴミ拾いイベントなどし、子どもたちに地域のすばらしさを伝えている。
	普及・汎用性	イベントがきっかけで近所の川でゴミを拾うようになった、生き物が好きになった等。
	革新・ユニーク性	婚姻色や自然光の中で色とりどりに光り輝く魚たちを200色の色鉛筆と手書きの文字にこだわった。
	継続性	学業優先の視線に負けずに日々変化のある琵琶湖に出来る限り潜り記録を続けること。それらを公開共有することを大切にすること。

展望の要旨

地球環境における問題を琵琶湖から見る事ができるので、琵琶湖から世界に発信できるような研究活動を続けていきたい。現場から伝えられる人になりたい。